

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	基礎看護技術 I	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：片倉 貴子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 対象との関係を築くために必要なコミュニケーション技術の基礎について理解する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・レポート					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版 ④ 看護コミュニケーション基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 定期的に課題に取り組みコミュニケーションについて学びを深めていく					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	コミュニケーションの意義と目的			講義・演習
2	2	コミュニケーションの構成要素と成立過程の仕組み			講義・演習
3	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本的態度・関係性について			講義・演習
4	2	効果的なコミュニケーションの実際			講義・演習
5	2	傾聴について			講義・演習
6	2	共感的理解			講義・演習
7	2	情報収集の技術			講義・演習
8	2	説明の技術			講義・演習
9	2	コミュニケーション障害への対応			演習
10	2	コミュニケーション障害への対応			グループ発表
11	2	プロセスレコードについて			講義・演習
12	2	プロセスレコードを書いてみよう			演習
13	2	実習でのプロセスレコードにて自己を振り返る			演習
14	2	実習でのプロセスレコードにて自己を振り返る			演習
15	2	アサーティブネスについて			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：服部 千佳 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 複数の臨床で経験してきたフィジカルアセスメントの技術とその根拠について、その経験を活かした実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：フィジカルアセスメントの目的、方法について理解する 対象の身体の状態を観察するためにバイタルサインの測定技術を身につける 学習目標：対象の身体の状態を観察するためにバイタルサインの測定技術を身につける					
《成績評価の方法》 筆記試験、技術テスト、課題提出					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ① 系統看護学講座: 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA ③ 看護学生のためのバイタルサイン よくわかるBOOK メジカルフレンド社					
《授業外における学習方法》 自己学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	フィジカルアセスメントとバイタルサインとは			講義
2	2	体温維持に関する基礎知識と体温測定のアセスメント			講義
3	2	呼吸①呼吸に関する問診・胸郭の視診・打診・触診			講義
4	2	呼吸②呼吸音の聴取、呼吸のアセスメント			講義
5	2	体温測定、呼吸についてのフィジカルイクザミネーション			演習
6	2	【脈拍】脈拍測定に関する基礎知識、脈拍測定方法とアセスメント			講義
7	2	【血圧】血圧に関する基礎知識、血圧測定方法とアセスメント			講義
8	2	血液循環に関する問診と意識について			講義
9	2	脈拍測定・血圧測定の実際(演習)			演習
10	2	バイタルサインのテストについて			
11	2	排泄と体液調節に関連するフィジカルアセスメント			講義
12	2	腹部の聴診と触診・打診と下肢浮腫の観察			演習
13	2	症状に合わせたフィジカルアセスメントの活用「息苦しい」など			講義
14	2	バイタルサイン測定の方法テスト			演習
15	2				

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (安全)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：羽賀紀子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関において看護師として実務経験のある教員が教授する					
<<科目目標>> 学習目的：看護における安全の考え方を理解し、基礎的な感染防止の技術を身につける 学習目標：1. 看護における安全の考え方と医療事故防止の取り組みを理解する 2. 感染の成立要件、標準予防策、感染経路別予防策、感染性廃棄物の取り扱いを理解する 3. 手指衛生、個人防護用具の着脱を正しく実施できる					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 看護学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 課題学習を行う					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護における安全の考え方、医療事故と医療事故防止			講義
2	2	感染の定義と成立過程の理解、感染予防の3原則			講義
3	2	標準予防策、感染性廃棄物の取り扱い			講義・演習
4	2	感染経路別予防策			講義・演習
5	2	感染予防基本技術(手指衛生、個人防護用具)			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (環境)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：森 真由 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 学習目的：看護師の判断が中心となって実践する療養環境を整える援助技術を身につける。 学習目標：1.生活者である対象の理解をふまえ、病床環境を調整する必要性がわかる。 2.対象者の生活の場としての環境の要素がわかる。 3.安全で安楽な病床を準備できる。 4.環境整備の方法を知り、援助することができる。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験、技術試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	病床環境の基礎知識			講義
2	2	ベッドメイキングの基礎知識			講義
3	2	2人で行うベッドメイキング			演習
4	2	臥床患者のシーツ交換			演習
5	2	臥床患者のシーツ交換			演習
6	2	病床環境の調整援助のアセスメントの視点			講義
7	2	事例による病床環境の情報収集とアセスメント			グループワーク
8	2	病床環境調整の方法			グループワーク
9	2	病床環境調整			演習
10	2	技術試験「臥床患者の下シーツ交換」			技術試験

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ(清潔)	科目区分	専門分野Ⅰ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1年後期
担当教員：堀 寿美枝 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 人間にとっての清潔・衣生活の意義について理解し、基礎的な援助技術を身につける。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験、技術試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① 系統看護学講座：専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 基礎看護技術 講義・演習ノート 上巻 日常生活援助技術編 サイオ社 ④ 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社 ⑤ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 特に演習については、教科書や視覚教材を使い事前学習して参加する					
≪履修に当たっての留意点≫ 演習時はパジャマ上下(長袖・前開き・襟付き)、スパッツ、タオル類など持参する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	人間にとっての清潔の意義の理解 清潔に関する周辺知識の理解			講義
2	2	身体清潔のための援助方法の理解			協同学習
3	2	・人間にとっての衣生活の意義			講義・演習
4	2	・衣生活に関するアセスメントと援助方法(パジャマ交換実施)			
5	2	「全身清拭」の援助を計画しよう			講義・演習
6	2	臥床患者の全身清拭			演習
7	2				
8	2	足浴			講義・演習
9	2	洗髪			講義・演習
10	2	臥床患者の全身清拭			技術試験

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ(活・休)	科目区分	専門分野Ⅰ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年前期
<p>担当教員：森 真由 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：人間にとっての活動及び休息・睡眠の意義について理解し、基礎的な援助技術を身につける</p> <p>学習目標：人間にとっての休息と睡眠の意義を理解し、援助方法が理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての活動の意義について理解し、動かないことによって起こる弊害がわかる。 2. ボディメカニクスを活用し、最小のエネルギーで安全に身体を動かしたり保持したりする技術を身につける。 3. 移動援助技術の基本を習得できる。 4. 車椅子、ストレッチャーに触れ、移送の目的や用具の操作、移送技術の基本を習得できる。 5. 患者への配慮の大切さを理解し、思いやりのある行動がとれるようにする。 					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 系統看護学講座：専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院 					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	休息と睡眠の基礎知識、睡眠障害の観察の視点と援助			講義
2	2	活動の基礎知識、活動障害の観察の視点と援助			講義
3	2	ボディメカニクスと体位変換、移動・移乗の援助			講義
4	2	安楽な体位の調整、体位変換			演習
5	2	車いす・ストレッチャーでの移乗・移送			演習

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	基礎看護技術Ⅴ(食・排)	科目区分	専門分野Ⅰ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	1年後期
担当教員：森 真由 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 1. 人間にとって食べることの意義について理解し、食事・栄養について基礎的な援助技術を身につける。 2. 人間にとって排泄することの意義について理解し、基礎的な援助技術を身につける。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ① 系統看護学講座：専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA ④ 看護師のための早引き検査値・パニック値ハンドブック ナツメ社					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	食事の意義とプロセス			講義
2	2	食事援助におけるアセスメント			講義
3	2	食事援助の基本、摂食障害時の食事援助			講義
4	2	口腔ケア			講義
5	2	食事介助・口腔ケア			演習
6	2	非経口摂取の援助（経管栄養法・中心静脈栄養）			講義
7	2	排泄の意義とプロセス、排泄援助におけるアセスメント			講義
8	2	自然排尿および自然排便の介助の実際			講義・演習
9	2	おむつ交換			演習
10	2	陰部洗浄			演習
11	2	排便障害時の援助、排便困難時のアセスメント			講義
12	2	温罨法・腹部マッサージ			演習
13	2	グリセリン浣腸			演習
14	2	排尿障害時の援助（一時的導尿・持続的導尿）			講義
15	2	一時的導尿			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術VI (診・検)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<p>担当教員：上田麻衣 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師は、健康障害のある方々への援助として日常生活援助の他に、医師の行う検査や治療行為の介助を行う。患者がより安全・安楽に検査・治療を受ける事が出来る様、看護師の行う基本的な援助についてその根拠を理解しながら援助技術を学ぶ。</p> <p>学習目標：診察と治療処置の目的・役割を理解し、援助技術を身に付ける。無菌操作の方法を修得できる。呼吸・循環を正常に維持する援助技術を身に付けることができる。</p> <p>吸引・吸入の適応を理解することができる。酸素吸入・噴霧吸入の方法を理解することができる。創傷管理・包帯法についての基礎知識・援助方法を理解する。</p> <p>シュミレーターを使用して静脈血採血ができる。</p>					
《成績評価の方法》筆記試験					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》					
① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院					
② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
③ 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》					
DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけながら演習に臨めるようにする					
《履修に当たっての留意点》					
細かい技術もあり、デモンストレーションでは1つ1つ確実に伝わるように行う					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 診察の意義と援助の方法 2. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識			講義
2	2	3. 無菌操作の基本			講義
3	2	4. 無菌操作演習			演習
4	2	5. 吸引 一時的吸引 (口腔・鼻腔) の基礎知識			講義
5	2	5. 吸引 持続的吸引の基礎知識			講義
6	4	6. 吸引の実施 (演習)			演習
7		7. 吸入 (ネブライザー) 療法			講義
8	2	8. 酸素吸入療法			講義
9	2	9. 創傷管理			講義
10	2	10. 包帯法演習			演習
11	2	11. 検査を受ける患者の看護			講義
12	2	12. 血液検査 目的・採血部位・留意事項			講義
13	2	12. 血液検査 使用物品の名称			講義
14	4	13. 検査の援助 腰椎穿刺・骨髄穿刺・胸水穿刺・腹水穿刺			講義
15		14. 採血演習 (シュミレーターを使用)			演習